

途中下車

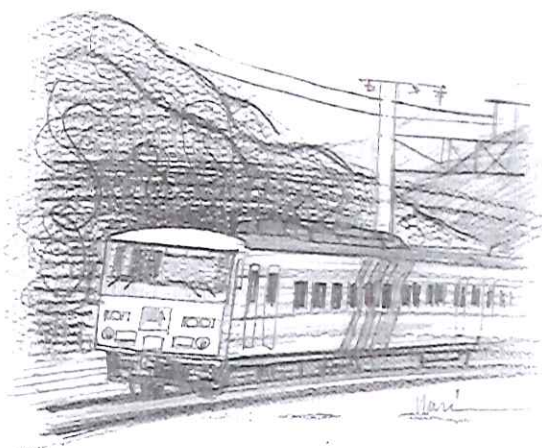
宮本輝

社会人となった筆者が二十歳前後の頃を回想した作品

いまから十三年前、私は友人と二人して、ある私立大学を受験するため上京した。というより、上京するため確かに東京行きの列車に乗ったのである。世の受験生と同様、私たちもまた幾分の不安と心細さを抱いて、窓外の景色を眺めていた。そんな気持ちを和めようとして、自然に口数だけは多くなっていった。ところが、京都から乗り込んできたひとりの女子高生が私たちの隣の席に座ったことで様相は一変した。減多にお目にかかれないほどの美人だったからである。私も友人も何となく態度が落ちつかなくなり、口数も減っていった。友人が意を決してその女子高生に話しかけたのは静岡を過ぎてからであった。

彼女は京都の大学を受験して、伊豆の大仁に帰る途中だった。友人はそっと私に耳打ちした。

「伊豆の踊り子やなア」



問1 どのように「様相は一変した」のか。

注1

伊豆 静岡県伊豆半島と伊豆諸島を占める地名。

注2

大仁 伊豆半島基部にある町。

103

なぜ踊り子なのか判らなかつたが、私は、うんうんとうなずき返した。彼女もだんだんうちとけてきて、三人が無事に受験に成功したら、再びどこかで逢ってお祝いしようなどと言いだした。そして私たちの心をさんざん乱したまま、艶然たる微笑を残して三島で降りてしまった。

「俺、もう東京の大学なんかやめにして、京都の大学を受けようかなア……」
とまんざら冗談でもなさそうに友人は呟いた。

「俺もさっきから考えてたんやけど、ことしは受験しても多分落ちると思うわ。一年浪人して、じっくり実力をつけて、来年にそなえたほうが賢いでエ」

私もまた本気でそう言った。話はあっさり決まった。私たちは親からももらった東京での宿泊費を伊豆の旅にまわすことにして、そのまま熱海で降りてしまったのだった。何とも親不孝な息子であった。そしてこれが私の人生における最初の途中下車であった。私たちはいい気分で伊豆の温泉につかりながら、大仁のどこかにあるであろう美しい女子高生を思った。住所も電話番号も教えてもらっていたが、私たちはその紙きれを見つめるだけで何もしなかつた。三日後、いかにも試験を受けてきたような顔をして家に帰った。

それから半年たった頃、友人の父が死んだ。彼は家業の運送店を継ぐために、進学を断念した。

注3

伊豆の踊り子
川端康成の小説。一九二六年発表。二十歳の「私」と「踊り子」との叙情的青春小説。

注4

熱海
伊豆半島北東岸にある市。全国有数の温泉観光地。

問2

ここでいう「途中下車」とはどういうことか。

また、「最初の」とあるが、どのような意味が込められているか。

問3

「何もしなかつた」二人の心情はどのようなものか。

15

10

5

1

私はといえば、受験勉強などそっちのけで、小説ばかり読みあさっていた。だが二人の心の中から、列車で知り合った女子高生の面影は消えなかった。私たちは逢うとその話ばかりしていた。彼女が京都の大学に受かったのかどうか気になって仕方なかった。ある日、ジャンケンで負けたほうが、彼女の実家に電話をかけようということになった。私が負けて、ダイヤルを回すと、ちようど何かの用事で京都から帰って来ていた彼女が出てきた。無事試験に合格し、丸太町の親類の家に下宿しているのだという。

「ところで、あなた、二人のうちのどっち？」

と彼女が訊いたので、私はほんの冗談のつもりで、友人のほうの名を言った。しばらく考えてから彼女はこう囁いた。

「逢うのなら、あなたと二人だけで逢いたいな」

私は黙りこくったまま、じっと電話をにぎりしめていた。そしてそのまま電話を切った。もっとうまい方法があった筈なのに、十八歳の私は打ちひしがれて、ほかにどうしていいのか判らなかつたのである。

「なあ、どうやった？ どない言うと思った？」

友人は目を輝かせて何度も訊いた。私は嘘をついた。彼女は受験に失敗して勤めに出ている、もう電話などしないで欲しい、そう言ってガチャンと電話を切られた

注5 丸太町
京都の東西にわたる通
りの名。

問4 「電話を切った」ときの
「私」の心情はどのような
ものか。

と説明した。

「ふうん、見事にふられたなあ」

友人はペロリと舌を出して笑った。

このことは、いつまでも私の中から消えなかった。生まれて初めての失恋が、私の心に傷を残したというのではない。私は自分のついてきた数多くの嘘の中で、この嘘だけを決して自分でも許すことができなかった。私がいまそれを文章にできるのは、につくき恋敵であるその友が、交通事故で死んでからもう十年もたったからである。

5

1

出典 『二十歳の火影』（講談社・一九八三年刊）

著者紹介 宮本 輝（みやもと てる）

一九四七年、兵庫県生まれ。小説家。ドラマティックな作品が多く、映画・テレビ化されたものも多数ある。代表作に『優駿』など。映画化された『泥の河』、『螢川』、『道頓堀川』は川三部作と呼ばれている。

問5

「このこと」とは何のことか。またなぜ「いつまでも私の中から消えなかった」のか。

ま
と
め

1 筆者は、なぜ「途中下車」

というタイトルをつけたのか。

2 「途中下車」は、人生にど

のような意味をもたらすか。

1 途中下車 (pp.8 ~ 11)

8	途中下車 幾分の 心細さ 和む 口数 様相 一変する 滅多に 意を決して 耳打ちする	とちゅうげしゃ いくぶんの こころほそさ なごむ くちかず ようそう いっぺんする めったに いをけっして みみうちする	stopover some forlornness to calm talkativeness aspect to change suddenly rarely to resolve to whisper	中途下车 某种程度; 多少, 稍微 心中无底, 心中不安, 心虚 稳重, 平静, 温柔 话(话语)的数量, 话多(少) 样子, 状态, 情况 完全改变, 一变 任意, 随便, 胡乱; 后接否定: 几平, 不常 决意, 打定主意 耳语(动)	도중하차 약간의 불안함 누그러지다 말수 양상 일변하다, 급변하다 어지간해서는 마음을 굳게 먹고 귓속말하다
9	うちとける さんざん 艶然たる まんざら 冗談 眩く 浪人 本気で あっさり 宿泊費 まわす 親不孝な つかる 紙きれ 家業 運送店 継ぐ 断念する そっちのけ 読みあさる 面影 ジャンケン 下宿する ほんの 囁く 黙りこくる 打ちひしがれる どない ガチャンと	えんぜんたる じょうだん つぶやく ろうにん ほんきで しゅくはくひ おやふこうな かみきれ かぎょう うんそうてん つぐ だんねんする よみあさる おもかげ げしゅくする ささやく だまりこくる うちひしがれる	to warm up to (someone) utterly captivating not altogether joke to mutter to take a gap year; gap year student seriously easily, readily lodging money to divert unfilial to soak (oneself) slip of paper family business freight agency to inherit, succeed to give up to neglect, ignore to read voraciously image, memory the game of "rock-paper-scissors" to lodge, board merely, just to whisper to remain silent, shut up to be dejected, crushed what, how (dialect) slam (onomatopoeia)	无隔阂, 融洽 厉害, 严重, 狠狠地, ~得惨, 狼狈不堪 嫣然, 莞尔 后接否定: 并不完全, 不一定 玩笑, 诙谐 发牢骚, 嘴里嘟囔 无业游民, 闲散人, 失学学生 认真, 正经 清淡, 素净; 爽快, 干脆 住宿费 转, 旋转; 传递 不孝 浸, 泡; 腌透 纸片, 便条, 废纸 家业 运输公司, 运输业务代理店 继承, 继续; 接上, 连接 断念, 死心 扔在一边儿, 丢开不管 博览, 贪读 面貌, 痕迹 猜拳; 划拳时的吆喝声 寄宿, 租住 仅仅, 少许 私语, 附耳低语 缄口不言, 一言不发 (被) 压坏, 压扁, 压碎; (被) 挫败 怎样, 如何 象声词: 哐	마음을 열다 몹시 완한 꼭 ~ 인 것만은 아니다 농담 증언거리다 제수 진심으로 쉽게 숙박비 돌리다 불효하다 몸을 담그다 쪽지 가업 운송회사 잇다 단념하다 제쳐놓음 마구 읽다 (옛) 모습 가위바위보 하숙을 하다 단지, 그저 속삭이다 잠자코 있다 풀이 죽다 어떻게 천격
10	見事に ふる ペロリと 失恋 傷 につっき 恋敵	みごとに しつれん きず こいがたき	completely, beautifully to jilt, dump to stick one's tongue out (onomatopoeia) heartbreak; to be unlucky in love scar, trauma detestable, hateful rival in love	漂亮地, 精彩地, 出色地; 完全, 彻底 甩掉, 拒绝 吐舌貌, 伸出舌头; 一口气 失恋 伤, 创伤 可憎, 可恨, 可恶 情敌	완벽히 (애인 등을) 차다 혀를 살짝 내밀 상처 미운 연적

2 愛情としつけ (pp.12 ~ 21)

12	葛藤 身につける 依存する 保護 全力を傾ける 自律的な 愛着 一見 相反する ブレンドする	かっとう みにつける いぞんする ほご ぜんりよくをかたむける じりつてきな あいちゃく いっけん あいはんする	dilemma, conflict, trouble to learn to depend on (someone or something) protection; to protect to devote oneself to autonomous love, attachment seemingly contradictory to blend, balance	纠葛, 纠纷 掌握; 携带在身 依存, 依靠 保护 倾全力, 全力以赴 自律(哲) 眷恋, 依依不舍 看上去, 看一眼 相反 调制, 混合	갈등 습득하다 의존하다 보호 전력을 자율적인 애착 언뜻 보기에 상반되다 섞다
----	---	--	--	--	---